

「この人 57」

## 工藤泰子 64歳 岡山県

編集部 俳句を始められたのは？

工藤 平成三年に、俳句をしていた父が亡くなり、俳句をしたいと思っていました。茨木和生先生が教鞭をとっておられた学校に息子が入学して、先生に出会いまして、PTA句会で勉強した後、平成五年に「運河」に入会し、投句を始めました。滑稽俳句は、「八千草」主宰の山元志津香先生に、「あなたは向いているわよ」と電話でお誘いを受けたのが、きっかけでした。

編集部 滑稽俳句の魅力は？

工藤 やわらか頭で、日本語を駆使して…実際はドタバタしていますが、表現の可能性を試せるところです。ファジー、曖昧さを楽しむことも魅力ですね。

編集部 俳句における「滑稽」とは？

工藤 こっけいは、けっこう真面目なものです。荒唐無稽ではありません。

編集部 滑稽俳句を作るコツは何でしょうか。

工藤 滑稽俳句に対してプライドを持って作ることです。

### 【代表句】

秒針をちぎつてしまふ時計草  
面白くなくてとんがる氷柱かな  
滑ったり踏んだり蹴ったり霜柱  
ふらこころを漕げば漕ぐほど右に寄る  
沖縄戦秘録より紙魚投降す